

日中対訳小説に見る使役表現について
**On the Causative Expressions in Japanese-Chinese
Translational Novel**

加藤 晴子

東京外国語大学大学院総合国際学研究院

KATO Haruko

Institute of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

はじめに

1. 使役表現の意味的分類
 - 1.1. 強制と許可
 - 1.2. もうひとつの分類
2. 調査データ
3. 全体的な訳出状況
 - 3.1. 中国語の使役表現の形式上の分類
 - 3.2. 訳出状況
4. 「つかいだて」と「みちびき」
 - 4.1. 翻訳例
 - 4.2. 翻訳上の違い
 - 4.3. 動詞の違い
5. 「恩恵」の意味が読み取れる使役表現

おわりに

キーワード：使役表現, つかいだて, みちびき, 対訳小説

Keywords: causative expressions, exploitation, guidance, translated novel



本稿の著作権は著者が所持し、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

要旨

日本語、中国語いずれにおいても、使役表現には、使役者から被使役者への強制によるものと、被使役者への使役者からの許可によるものがあることが認められている。

これに対し、早津の一連の論述では、日本語の使役表現について、被使役者が行う動作の結果を使役者が利用・享受する「つかいだて」と、被使役者が享受する「みちびき」の別を挙げている。早津は、両者には動詞の違いのほか、いくつかの違いが見られることを指摘し、結果含意性を持つ日本語の使役表現を考えるうえで有効な分類であるとしている。

本稿では、この「つかいだて」と「みちびき」の別が、使役形に結果含意性を持たない中国語でも表されるか否かについて、日中対訳小説を資料として調査し、考察を加えた。その結果、中国語の使役表現の形式上の分類から見るとは、「つかいだて」と「みちびき」の別が反映されとは言えないこと、ただし、翻訳の際の動詞の変更により、日本語原文より「つかいだて」「みちびき」の意味が薄れるまたは失われる場合があることを見出した。

Abstract

In both Japanese and Chinese, causative expressions can be divided into two types: compulsory type and permissive type.

On the other hand, Hayatsu raises another classification of causative expressions in Japanese: “tsukaidate (exploitation)” and “michibiki (guidance)”. “Tsukaidate” means that the causer uses and enjoys the result of the action performed by the causee, and “Michibiki” means that the causee enjoys it. Hayatsu pointed out that there are differences in verbs and some other differences between the two, and also states that this classification is effective because causative expressions in Japanese have consequent implications.

In this paper, we investigated whether this distinction between “tsukaidate” and “michibiki” can be seen in Chinese, in which causative expressions do not have consequent implications, by investigating Japanese-Chinese translational novels as materials. As a result, from the morphological classification of Chinese causative expressions, it cannot be said that the distinction between “tsukaidate” and “michibiki” is reflected. However, we found that when the verbs were changed during translation, the meanings of “tsukaidate” and “michibiki” were sometimes weakened or lost compared to the original Japanese text.

はじめに

日本語においても中国語においても、使役表現には強制によるものと、許可・放任によるものがあることが認められている。

強制の例：私は太郎を無理やり買い物に行かせた。（加藤2006:41を改編）

許可の例：太郎がどうしても行きたいというので、私は太郎を買い物に行かせた。（同上）

強制の例：我叫小红念课文。（木村2012:188）

許可の例：你让我好好儿想想。（同上）

これに対し、早津 2016, 2017, 2019 は、日本語の使役表現について、もうひとつの見方「つかいだて」と「みちびき」との別を挙げている。

「つかいだて」の例：太郎は花子に髪を切らせる。「髪＝太郎の髪」（早津2016:85）

「みちびき」の例：太郎は花子に髪を切らせる。「髪＝花子の髪」（同上）

早津の一連の論述では、両者のあいだに、動詞の違いや使役者・動作者（＝被使役者）のあり方、前後の他の節等との関係に関し、違いが見られることを指摘している。また、結果含意性を持つ日本語の使役表現を考えるうえで有効なものとしている。

では、この「つかいだて」と「みちびき」の別は、中国語の使役表現、特にそのうちの結果含意性を持たないとされる使役形¹⁾でも表されるのか、表されるとしたら、どのような違いとして表されるのか、本稿ではこの点を論じてみたい。

1. 使役表現の意味的分類

1. 1. 強制と許可

日本語においても中国語においても、人と人が関わる使役表現には強制・命令（以下「強制」とのみ記す）によるものと、許可・放任（以下「許可」とのみ記す）によるものがあることが認められている。

1. 1. 1. 日本語の場合

【注1】使役の表現は他に対して動作をすることを強制する意をもつもので、〔後略〕

〔中略〕

【注3】使役の助動詞²⁾は、放任する、あるいは、許可するの意味にも用いられる。

- ① 勝手に言わせておくさ。
- ② 道路で子供を遊ばせるな。

（日本語教育事典:200-201）

使役構文の基本構造は、動作を起こすという判断が動作主以外にあることなので、①使役・強制のほかに②許可・許容の意にもなる。
（加藤2006:40-41）

1. 1. 2. 中国語の場合

木村 2000, 2003, 2012 は、中国語の有標のヴォイス構文を取り上げ、中国語においてヴォイスという現象がいかなる形で文法化し、カテゴリ化されているかを示したものである。中国語の有標ヴォイス構文はすべて [XeYV] で表すことができるとし、以下のように、指示使役文、放任

- 1) 本稿では、使役義を持つもの全体を使役表現と呼ぶ。そのうち、日本語については「サセル形」を使い [XガYニ/ヲ(Zヲ)V(サ)セル] で表せるもの、中国語については、いわゆる兼語式と呼ばれる形式を使い [XeYV(Z)] で表せるものを、それぞれ使役形と呼ぶことにする。また、使役表現、使役形を含む文を使役文と呼ぶ。
- 2) 『日本語教育事典』の「I 使役の表現」では、使役の助動詞として「せる・させる」「しめる」「す・さす」を挙げている。

使役文、誘発使役文、受影文、執行使役文の5つを認めている³⁾。

- (I) 指示使役文 X 叫 Y A Xは抽象的働きかけの主体, Yは動作Aのスル主体
 - (II) 許容使役文 X 让 Y A Yは動作Aをスル主体 (XはYの動作を許容・放任)
 - (III) 誘発使役文 X 使 Y S Yは状況Sにナル主体 (Xが誘因となりYが変化)
 - (IV) 受影文 X 被 Y AS Yは動作Aをスル主体, Xは状況Sにナル主体
 - (V) 執行使役文 X 把 Y AS Xは動作Aをスル主体, Yは状況Sにナル主体
- (ただし A: 〈スルの述語〉⁴⁾ S: 〈ナルの述語〉⁵⁾ AS: 〈スル・ナル合体の複合形式〉⁶⁾)

うち (I) が強制の使役表現, (II) が許可の使役表現である。

1. 2. もうひとつの分類

強制と許可の分類に対し, 早津 2016, 2017, 2019 等ではもうひとつの見方として「つかいだて」の使役と「みちびき」の使役との別を挙げている。

早津 2016 は「(3) 太郎は花子に髪を切らせる。」という文を例に以下のように述べている。

「つかいだて」というのは, 使役主体 (他者の動作を引きおこす主体: (3) の「太郎」) が動作主体 (動作を行う主体: (3) の「花子」) にある動作を行わせることによって使役主体がその結果を享受するという事態であり, 「みちびき」は, 使役主体が動作主体に動作を行わせることで動作主体自身がその結果を享受するという事態である。〔中略〕なお, この「つかいだて: みちびき」というのは, 「強制: 許可」と同じく, 人の意志動作の引きおこしを表す使役文 (人が他者に何らかの関与をして他者の意志動作を引きおこすことを表す使役文) についてのものであり, 人の無意志動作の引きおこし (「太郎は病弱で親を心配させた」) や事物の変化の引きおこし (「果汁を凍らせる」「物価を安定させる」) を表す使役文についてはあてはまらない。

(早津2016:85-86)

【つかいだて (他者利用) の使役】〔中略〕動作主体がその動作を行うことによって, それをさせた使役主体や使役主体に関わるものの状態が変化する。〔中略〕

【みちびき (他者誘導) の使役】〔中略〕動作主体がその動作を行うことによって, 動作主体自身の状態が変化する。

(早津2016:91)

このような「つかいだて: みちびき」という捉え方は「強制: 許可」という捉え方を否定する

- 3) ただし, 実際には (I) (II) (III) (V) と “叫” “让” “使” “被” は必ずしも一対一で対応する訳ではない。
- 4) [+意志性] が認められる。ただし, 杜暉 2020 は, 使役者 (X) と動作者 (Y) のそれぞれの意志性を別々に考えるべきと主張している。
- 5) [-意志性] が認められる。
- 6) 中国語学でいう, 動詞+結果補語がその代表的な形式として考えられている。
- 7) ただし, 「結果」には段階性の違いがあるのではないか。例えば「ホッとすること」はホッとすること自体が結果と考えられるが, 「牛乳を飲む」は飲むことによって牛乳が体内に取り込まれる段階と, 次に生じる事態 (背が伸びる, 丈夫になる, 眠りやすくなる, 等) の段階とで二段階の結果となると考えられる。

ものでもこれと矛盾するものでもなく異なる観点からの分類であり、本章の冒頭にあげた (3) でもみたように両者は両立しうるものである (同:88)」としている。このことを早津 2016 の挙げる例で示せば、以下のようになる。

「強制」で「つかいだて」

(1) 先生は帰ろうとしている学生をつかまえて大事な花瓶を運ばせた。

「強制」で「みちびき」

(2) 母親は子供に無理やり牛乳を飲ませた。

「許可」で「つかいだて」

(3) 学生たちが「ほくたち気をつけて運びますからぜひお手伝いさせてください」というので大事な花瓶を運ばせることにした。

「許可」で「みちびき」

(4) 子供が「もっと飲みたい」というので、きょうは好きなだけ牛乳を飲ませた。

「強制:許可」は使役事態の《先行局面/原因局面》⁸⁾に注目するもので、「つかいだて:みちびき」は使役事態の《後続局面/結果局面》⁹⁾に注目するものだという (早津 2016:118)。

また、早津 2016 によれば、「つかいだて:みちびき」の別は、動詞の語彙的な意味とも関係する。早津 2016 は、使役文の文法的な意味を考えるにあたり、動詞 (人の意志的な動作を表す動詞) を、その動作が何に変化を生じさせることを指向して行われるかという観点から (a) 「対象変化志向の他動詞」、(b) 「やりとり志向の他動詞」、(c) 「主体変化志向の他動詞」、(d) 「主体変化志向の自動詞」に分類し、さらに (b) を (b-1) 「授与・発信型」と (b-2) 「取得・受信型」に分けたうえで、(a)、(b-1) (あわせて「対象変化志向」と見る) を原動詞とする使役文は第一義的に「つかいだて」となり、(b-2)、(c)、(d) (あわせて「主体変化志向」と見る) を原動詞とする使役文は第一義的に「みちびき」となるとしている¹⁰⁾。

さらに、動作主体の位置づけや、原動詞が他動詞である場合の動作の対象のあり方についても、それぞれ違いが見られるとしている。まとめて示す。

	動作主体の位置づけ	動作対象
つかいだて	明示されなくとも可 使役主体の代行者・分身・道具	使役主体側のもの
みちびき	文中・文脈に明示 使役主体の被誘導者・被育成者	動作主体側のもの

表1:「つかいだて」の使役と「みちびき」の使役の比較

8) 動作の実現に際して使役主体の意志と動作主体の意志のどちらが強いか、または、動作が実現するきっかけが使役主体にあるか動作主体にあるか、を見る。

9) 使役主体が動作主体に動作をさせることによって、広い意味での動作の結果を使役主体と動作主体のいずれが享受することをめざすか、を見る。

10) ただし、他の条件によって「つかいだて」「みちびき」が移行する場合も示されている。

以上、「つかいだて：みちびき」について、早津 2016 を中心に見てきたが、早津によれば、「日本語の使役文を《後続局面／結果局面》に注目して特徴づけることは日本語の使役文に結果含意性（動作主体が原動詞の表す動作を行うこと、少なくとも着手することを含意するという性質）があることに関係するものであり、その点からも無理のない捉え方だと思われる（早津 2016:118-119）」としている。一方で、「サセル」は X が Y に動作をするように働きかけ、その働きかけを受けた Y が動作を実行した場合にのみ用いられるのに対し、「中国語の使役文は、“叫”“让”は働きかけを受けた Y が動作を実行しなかった場合にも用いられる」（楊 2018:203）とあるように、中国語の使役文は結果含意性を持たないとされている¹¹⁾。であるならば、中国語の使役文では「つかいだて：みちびき」の違いが表されることはないのかを考察するのが、本稿の主な目的である。

2. 調査データ

本稿では、北京日本学研究中心 2003 「日中対訳コーパス」内の日本語小説『ノルウェイの森』とその中国語対訳を調査した。日本語原文から検索ワード「[あかがさざただなはばまやらわ]せ[!ん]」により、使役形を検索したところ、193 例がヒットした。そのうち、日本語原文で「耳を澄ませる」* → 「耳が澄む」のように、対応する「Y が V スル」のない 10 例と、中国語対訳に対応する箇所がない 10 例とを除いた 173 例を本稿での考察対象とする。さらに、本稿でのテーマ、「つかいだて」「みちびき」について考察する際は、人と人との関りにより生じる意味であるため、使役者 (X) と動作者 (Y) がともに人であり、動詞がサセル形になる前のもとの形（「原動詞」）で意志動詞である 76 例のみを見ることとする。以下に挙げる用例の末尾の【 】内はコーパス内の段落番号を示す。また、コーパス内の誤りについては、書籍版によって修正した。

3. 全体的な訳出状況

3. 1. 中国語の使役表現の形式上の分類

1.1.2. に紹介した木村 2012 は中国語のヴォイスカテゴリ全体を [XcYV] でまとめて大まかに見たものであったが、刘永耕 2000、牛顺心 2008 等も参考にし、さらに本稿での中国語対訳の調査結果も合わせ、本稿での中国語の使役表現の形式上の分類を、以下の①～⑨とする。

本稿での中国語の使役表現の形式上の分類（それぞれの例は 3.2. に示す）

- ① [XcYV] の形式で、cに/叫・让¹²⁾が使われる使役形のうち人(X)と人(Y)とが関わるもの
- ② [XcYV] の形式で、cに/叫・让¹³⁾が使われる使役形のうちXとYのどちらかまたは両方が人以外でありVに無意志動詞が使われるもの

11) 三宅 2007 では、本稿で後述の①と③にあたる使役文について、“了”との共起もからめ、結果事態の実現性について詳細に検討している。また、牛顺心 2008 では、実現・完了を表す“了”や、未実現を表す“想”等との共起により、結果含意性は影響を受けることが述べられている。

12) “叫/让”だけでなく“使”“令”など、具体的な働きかけの仕方を表さず、抽象的な使役を表す動詞をまとめて/叫・让/で示す。

13) この形式では、“叫”“让”よりも“使”“令”などが多く使われる。

- ③ [XcYV] の形式で, cに使役義を持ち¹⁴⁾, 具体的な働きかけの仕方を表す動詞を使うもの
- ④ 使役義を持つ動詞 + 補語形式を含む文¹⁵⁾
- ⑤ 使役義を持つ“得”補語文
- ⑥ 使役義を持つ連動文
- ⑦ 使役義を持つ“把”構文¹⁶⁾
- ⑧ 使役義を持つ“被”構文
- ⑨ 使役義を持つ“给”“讨”“由”等を使う文

本稿の呼び方では, ①～⑨が使役表現であり, ①～③が使役形である。①～⑨以外に本稿の調査では, 日本語原文の使役形が, 使役義を持たない文に訳されているものもあった。

⑩ 使役義を持たない能動文

ここで確認しておきたいのが, 結果の含意性である。中国語においては使役形(本稿での①～③)が結果を必ずしも含意しないとされるのは1.2.で触れた通りであるが, 細かく見ると, 使役形①～③のうちでも, ②は結果を含意する(「指示使役文¹⁷⁾のVが通常, 未然的であるのに対して, 誘発使役文のそれは既然的である」木村 2012:193, “致动式在无标记状态下表示的是客观情况造成的某种结果或状态(致动式¹⁸⁾が無標の場合に表すのは客観的な状況が作り出したある種の結果や状態である(本稿執筆者訳)”)牛順心 2008:67)。また, ④は動詞 + 補語型の動詞または動詞 + 補語フレーズであるので, もともと結果を含意する。動詞 + 補語フレーズと親和性が高い⑦⑧も結果を含意する。⑤については, 牛順心 2008:67 が結果含意であるとしている(“在无标记状态下, 汉语用“得”来标记已然的成事(無標の場合, 中国語の“得”は已然の出来事をマークする(本稿執筆者訳)”)。残る⑥と⑨については, 個別の例によるようである。以上をまとめると, 以下のようになる。

動作者 (Y) の動作への着手～実現という結果を含意する形式: ②④⑤⑦⑧

動作者 (Y) の動作への着手～実現という結果を含意しない形式: ①③

以上を踏まえ, 実際の訳出状況を見ることにする。

14) 使役とは, 「ある人から他者への動作惹起をめざした働きかけ + 他者の動作」(早津 2018:137), 「2つの事象(event)とその因果関係」(三宅 2013:85)等と説明され, その複合性, 二段階性を特徴とするものである。ここでは, そのような複合性, 二段階性が認められるものを使役義を持つとし, 認められないものを使役義を持たないとした。

15) 中国語では, 動詞(および一部形容詞)の後ろに他の動詞や形容詞がついて, 動作の結果を表すものを結果補語と呼び, 動作の方向を表すものを方向補語と呼ぶ。ここでは同形式が複合動詞として語彙化したものと同形式によるフレーズとを合わせて考える。ただし, すべての動詞 + 補語形式が使役義を持つわけではない。動詞に結果補語がついたものが使役義を持つメカニズムについては, 楊麗榮 2014 に簡潔なまとめと考察がある。

16) ⑦⑧も典型的なものは動詞 + 補語形式を含んでいる。

17) 木村 2012 の指示使役文は本稿での①に, 誘発使役文は②にあたる。

18) 牛順心 2008 の致动式は本稿での②にあたる。

3. 2. 訳出状況

全考察対象 173 例の対訳状況は以下の通りであった。「人以外」は X と Y のどちらか一方または両方が人以外であることを表す。また、①の人以外の 2 例は Y が動物である。

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① 52 (X, Yが人50, 人以外2) | ② 20 (X, Yが人0, 人以外20) |
| ③ 4 (X, Yが人2, 人以外2) | ④ 29 (X, Yが人9, 人以外20) |
| ⑤ 2 (X, Yが人1, 人以外1) | ⑥ 5 (X, Yが人4, 人以外1) |
| ⑦ 5 (X, Yが人3, 人以外2) | ⑧ 3 (X, Yが人1, 人以外2) |
| ⑨ 7 (X, Yが人3, 人以外4) | ⑩ 46 (X, Yが人23, 人以外23) |

それぞれの例を挙げる。以下の例では、使役者(X)に下線を、動作者(Y)に二重下線を、それぞれ引いて示す。

- (5) レイコさんは僕の背中を叩いてソファーに座らせ、自分もそのとなりに座った。【1151】
→①玲子拍了下我的脊背，叫我坐在沙发上，她自己坐在我旁边。
- (6) その姿はインドの打楽器奏者を思わせた。【733】
→②那样子不禁使人想起印度打击乐的演奏者来：
- (7) 僕としては結論を急がせるつもりはないのですが、【2945】
→③我并不想催你仓促做出决定，
- (8) 風がカーテンを揺らせた。【985】
→④风吹动着窗帘。
- (9) レイコさんはまた何か冗談を言って二人の男を笑わせた。【1501】
→⑤玲子还说了句什么笑话，逗得两个男子直笑。
- (10) レイコさんが犬に言い聞かせるように言った。【1579】
→⑥玲子像讲给狗听似地说。
- (11) あなたと少し離れていた方がいいんじゃないかという気がずっとしてたのよ。いろんなことをはっきりさせるためにも 【3153】
→⑦恐怕还是同你分开一段时间为好，即使为了把事情弄清楚。
- (12) 徳島っていう看護人は去年アルコール中毒がひどくなってやめさせられたし 【1710】
→⑧一个叫德岛的护理员，去年酒精中毒，闹得天翻地覆，被解雇打发走了。
- (13) こうなったら彼女にしゃべりたいだけしゃべらせた方が良さそうだった。【392】
→⑨事到如今，看来最好由她讲个痛快。
- (14) そんなに時間とらせない。五分でいいよ。【3077】
→⑩不占你多少时间，五分钟就行。

以下では、⑦⑧⑨は、それぞれの用例数も少なく、いずれも [XcYV] の c のバリエーションでもあることから、特に必要がある時以外はまとめて示すこととする。

4. 「つかいだて」と「みちびき」

4.1. 翻訳例

「つかいだて」や「みちびき」は、人と人との関りにより生じるため、ここからはX, Yがどちらも人である76例を考察対象とする。その際、X, Yが文中に現れていないものについても、文脈等から補って考察した。

「つかいだて」と「みちびき」の分類は、早津2016の記述をもとに行う。まずVを見て、先に見た対象変化志向動詞と主体変化志向動詞のどちらであるかを確認する。次に「動作の結果をXが利用する」のか「動作の結果をYが享受したりYに変化が生じたりする」のかを確認する。他に、1.2の表1を踏まえ、使役者(X)と動作者(Y)の関係(YがXの分身・代行者・道具である場合「つかいだて」、XとYが誘導者と被誘導者であり、別々の独立した存在である場合「みちびき」)、Yのあり方(明示されない場合「つかいだて」、重要な情報である場合「みちびき」)、動作対象(Z)がある場合、それがXとYどちらのものか、等も参照し、「つかいだて」と「みちびき」に分類した。

以下、それぞれについて、中国語訳と共に例を挙げる。(15)～(18)は「つかいだて」の使役の例、(19)～(22)は「みちびき」の使役の例である。中国語訳につけた①～⑩は、3.1.1で示した形式上の分類である。

(15) ごめんなさいね、一日中つきあわせちゃって。【200】

→①对不起，让你陪了一整天。

(16) 僕としては結論を急がせるつもりはないのですが、【2945】 (= (7))

→③我并不想催你仓促做出决定，

(17) 不親切な町では人々は警官を呼んで僕を公園から追い払わせた。【3279】

→⑦而若是人情淡薄的地方，人们便喊来警察把我逐出公园。¹⁹⁾

(18) でもわるいわね、私の話ばかり聞かせちゃって。【1358】²⁰⁾

→⑩对不起呀，光听我说了。

(19) 緑はすぐに僕にシャワーを浴びさせ、それから自分も浴びた。【3190】

→①绿子马上让我淋浴，然后她才进去。

(20) その朝の六時半に緑が僕に電話で、それを知らせた。【2345】

→④那天早晨六点半，绿子打电话来通知我。

(21) もしよければその話を聞かせてくれませんか？【1359】

→⑥可以的话，讲给我听听好么？

(22) 緑は父親をあおむけに寝かせ【2201】

→⑦绿子把父亲仰面放平，

19) 日本語原文は「人々は警察に僕を追い払わせた」という組み立てになっているが、中国語訳文では「人々は(警察を呼んで)僕を追い払った」という組み立てになっている。

20) 原動詞「聞く」は主体変化志向動詞であるが、ここでは動作者(Y)が聞くことによって使役者(X)がある種の満足感を得ていることから、つかいだての例と考えられる。

4. 2. 翻訳上の違い

人 X が人 Y にある動作をさせ、その結果を X または Y のどちらかが利用・享受する、その結果により何らかの変化が生じるという関係は、人間社会に共通して見られるものであると考えられるが、それを区別して言語化するか否かはそれぞれの言語により対応が異なることは容易に想像される。4.1 で見た中国語訳の形式上の内訳をまとめると、以下ようになる。

	①	③	④	⑤	⑥	⑦⑧⑨	⑩	計
つかいだて	10	1	2			2	6	21
みちびき	25	1	4	1	4	4	16	55
計	35	2	6	1	4	6	22	76

表 2: 「つかいだて / みちびき」の中国語訳の形式上の分類

グラフ化する。

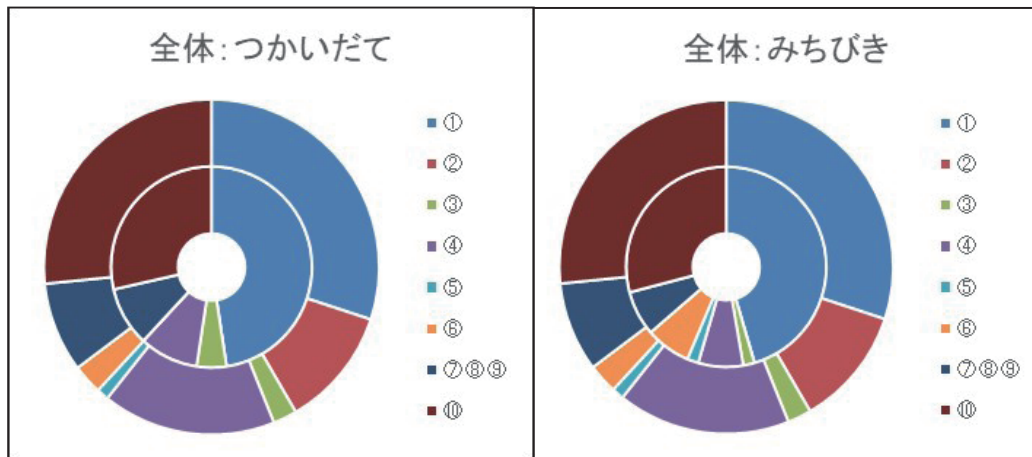


図 1: 「つかいだて / みちびき」の中国語訳の形式上の分類

外側の円が、全考察対象 173 例の内訳、内側の円が、「つかいだて」「みちびき」それぞれのみの内訳である。中国語訳の形式上の分類から見る限り、大きな差は見られない。また、3.1 で検討した、形式ごとの結果の含意性別に見ても、「つかいだて」「みちびき」、いずれも、結果までを含意する④⑤⑦⑧が特に多いということはないようである。「つかいだて」と「みちびき」とを比べると、「みちびき」の内訳のほうが全体の内訳により近くなっているが、これは、「つかいだて」21 例に対して「みちびき」55 例と、「みちびき」のほうが用例数が多いためと考えられる。このことは今回調査した『ノルウェイの森』特有のことなのかは、今後他の作品等とも比較してみる必要がある。

4. 3. 動詞の違い

早津 2016 による日本語の「つかいだて」の使役と「みちびき」の使役との違いは、原動詞が対象変化志向動詞であるか主体変化志向動詞であるかを基本としたものであった。対象変化志向か

主体変化志向かは、言語外の事態に基づくものであり、このような動詞の意味上の別は、どの言語でも何らかの形で表現し得るものであるとするならば、中国語の動詞にも同様の意味上の違いを認めることは可能であると考えられる。では、「つかいだて」の使役と「みちびき」の使役それぞれを中国語に翻訳した場合、日本語原文における2種の動詞の違いは、そのまま中国語訳文に移されるのであろうか。これを見るために、作成したのが表3である。中国語の「対象変化志向動詞」「主体変化志向動詞」の別は、中国語の動詞にもそのような別があったとした場合、用法から考えてそのどちらにあたると考えられるかという基準で判断した。

原文		訳文	【中】対象変化	【中】主体変化
つかいだて	【日】対象変化		绑上, 大发 (兽性), 付 (钱), 干, 加以 (制止), 蒙住, 塞进去, 说, 吐口, 逐出	なし
	【日】主体変化		灌醉, 陪, 做出 (決定) (A)	读, 撒尿, 舔, 听, 占, 坐下
みちびき	【日】対象変化		弹, 横加 (阻挡), 讲, 选择	进去, 逆来顺受 (C)
	【日】主体変化		倒 (水), 分开, 告诉, 告知, 通知, 喂, 自言自语 (B)	扮演, 抱过来, 吃, 搭伙, 发挥, 过夜, 喝, 看, 练习, 淋浴, 品尝, 贪多求快, 躺好, 躺进 (卧室), 躺 (一下), 听, 停下来, 脱下来, 想, 笑, 仰面放平, 坐, 坐下

表3：日本語原文と中国語訳文での動詞の志向

多くの例では、日本語原文の対象変化志向動詞、主体変化志向動詞は、中国語訳文の対象変化志向動詞、主体変化志向動詞にそれぞれ対応していることがわかる。注目すべきは対象変化志向動詞に主体変化志向動詞が対応する場合と、主体変化志向動詞に対象変化志向動詞が対応する場合、表3で太枠とした箇所(A)(B)(C)であろう。そのうち、(C)で示した2例は、原文に忠実な訳文ではなく、性的表現を避けるためにぼかした訳文であったり、意識したものであったりするので、取り上げないこととし、(A)と(B)の一部例を見ることにする。(A)(B)に現れた動詞は、先に見た④や⑩の形式に使われたものがほとんどである。

(23)彼女の死を僕に知らせてくれたのはもちろん永沢さんだった。【2551】

「みちびき」

→④向我告知她的死的自然是永泽。

(24)とにかくどんどん酒を飲ませて酔払わせるんだよ、どんどん、とにかく。【1902】

「つかいだて」

→④反正就是不管死活地给她灌酒，要灌醉，一杯接一杯灌，反正。

(23)では、日本語原文中の「知らせる」の原動詞「知る」は行為の結果、情報が知る主体(Y)に取り込まれることになる「主体変化志向動詞」であるが、中国語訳文中の“告知”は、「告げて知らせる」という意味を1語で表す動詞+結果補語型の動詞である。被使役者(Y)への情報伝達の意を持つ「対象変化志向動詞」にあたるものであると考えられるが、使役者(X)の「告げる」動作と被使役者(Y)の「知る」という状態変化が別々に述べられている。このような違いのためか、訳文では、原文の「みちびき」の意味が薄れるように感じられる。(24)は「酔払う」という「主体変化志向動詞」を使いながら、全体としては使役者(X)である話し手はその結果をうまく利用しようとしており、「つかいだて」の使役である。中国語訳では“灌(液体を注ぐ)”+“酔(酔う)”という動詞+補語のフレーズに翻訳されており、使役者(X)の動作と被使役者(Y)の状態変化が別々に述べられているため、「つかいだて」の意味が薄れるように感じられる。

さらに、⑩の使役義を失った形式に訳された場合も見。

(25)緑は枕もとに座って、汗を拭いたり、水を飲ませたり頭の痛みのことを訊いたりした。

【2326】「みちびき」

→⑩緑子坐在枕旁，擦汗、喂水，问头痛好些没有。

(26)ただそのお話を聞かせてほしいだけなの【2471】「みちびき」

→⑩我只是想听听是怎么回事。

(27)私も読ませてもらっています。いいわよね、読んでも？【3110】「みちびき」

→⑩我也看了，我看也可以吧？

(28)そんなに時間とらせない。五分でいいよ【3077】(= (14))「つかいだて」

→⑩不占你多少时间，五分钟就行。

(25)では、日本語原文中の「飲ませる」の原動詞「飲む」は行為の結果、物が飲む主体(Y)に取り込まれることになる「主体変化志向動詞」であるが、中国語訳文中の“喂”は、「(人の口まで持って行って)食べさせる(小学館『中日辞典』第3版)」という意味を1語で表す動詞である。対象に変化を生じさせる意、または、対象への授与の意を持つ「対象変化志向動詞」にあたるものであると考えられる。(26)では、日本語原文中の「聞かせる」の原動詞「聞く」は行為の結果、情報が聞く主体(Y)に取り込まれることになる「主体変化志向動詞」であり、それをいったん使役形にして聞き手を使役者(X)としたうえで、聞き手への依頼を述べる表現となっているが、中国語訳文中では、単に動作者(Y)の願望として“想听听(ちょっと聞きたい)”と述べている。聞き手への働きかけのニュアンスは失われる。(27)でも、日本語原文中の「読ませる」の原動詞「読む」は行為の結果、情報が読む主体(Y)に取り込まれることになる「主体変化志向動詞」であり、それをいったん使役形にして第三者を通じ間接的に聞き手である使役者(X)から許可を得るような表現にしているが、中国語訳文中では、単に“看了(読んだ)”と述べている。ここでも聞き手への働きかけのニュアンスは失われる。(28)の日本語原文の「(時間を)とる」は、自分の時間をとって対象に分け与えることを表す「授与・発信型」の「対象変化志向動詞」であると考えられ、使役形にすることで聞き手である動作者(Y)に時間をとらせることによって話し手である使役者(X)が何らかの利益を得ようとする表現になっているが、中国語訳文中では、“占你时间(あ

なたの時間を占有する)”と話し手側からの一方的行為として述べている。3例とも、「つかいだて」や「みちびき」の意味はもはや読み取れない。

加藤 2016 では、本稿と同じく『ノルウェイの森』を資料に、日本語原文の受身形に対応する中国語訳について考察している。その中で、日本語原文の受身形が中国語訳では能動表現となる例、言い換えれば受動者と動作者の順序が原文と訳文とで逆転する例を取り上げ、それらのうち中国語の“被”の使用上の制約には抵触しないにも関わらず能動表現が選択されたものについては、受動者と動作者のどちらの立場から事態を述べるかについての変更が起り、日本語ではなるべくどちらの立場に立つかを統一して叙述しようとするのに対し、中国語では必ずしもそのようなことにこだわらない傾向が現れることを指摘している。

本稿は日本語の使役形とその中国語の翻訳に関して調べたが、使役形が動詞+補語の形式、さらには使役義を持たない文に翻訳され、その際に原文の主体変化志向動詞が訳文で対象変化志向動詞にあたる動詞に変更された場合でも、受動者と動作者の順序が入れ替わる受身形と能動表現とは異なり、使役者と動作者の現れる順序が逆転することはない。そのため、叙述に当たっての立ち位置には変更は見られない。何らかの便宜や事物・情報が動作者から使役者へ、または、使役者から動作者へ渡るといった事態を述べることに変わりがないが、日本語原文で、わざわざ主体変化志向動詞を使役形にして述べる述べ方が、使役者と動作者のあいだの「つかいだて」や「みちびき」の関係を示すのに対し、中国語訳文では、対象変化志向動詞にあたる動詞を直接使うことから、そのような両者のあいだの関係が読み取りにくくなる。日本語原文の使役形に示される使役者と動作者との間の関係性や、動作の結果に対する意味付けが失われるようである。そして、このことを逆から見れば、使役形に結果含意性を持たない中国語においても、動詞の違いによって「つかいだて」「みちびき」の意味が表されることがありうることを示唆しているとも言える。今後さらに検討したい。

5. 「恩恵」の意味が読み取れる使役表現

最後に使役表現に「恩恵」の意味が読み取れる場合について触れておきたい。加藤 2019 では、中国語原文から日本語訳文への対応を調査し、中国語原文中の「恩恵」の意味を含む使役形の日本語訳文について、すべてが「テヤル」「テクレル」「テモラウ」等の授受形を使って訳されるわけではないが、「恩恵」の意味を含まない使役形と比較すると授受形が使われる割合が高いこと、使役者(X)が与益者で動作者(Y)が受益者のもの(X→Y)と、動作者(Y)が与益者で使役者(X)が受益者のもの(Y→X)とを比べると、後者の方が若干その傾向が強いことを述べている。本稿では加藤 2019 と逆向きの、日本語原文から中国語訳文への対応を調査した。

「恩恵」は、モノやコトがもたらすこともあるため、以下では、全 173 例について調査する。早津 2017 を参考にした加藤 2019 と同じく、以下に該当するものを「恩恵」の意味を含むものとした²¹⁾。

21) ただし、早津は、使役文が持つ恩恵の意味は、文法的な意味とは言えず、「表現性として表している」と述べている。なお、加藤 2019 では、つかいだて・みちびきと恩恵の意味とを一部混同しているように見受けられる。

- i 「つかいだて」の使役の場合、「主語がある状態を享受したいという目的や意図をもち、その実現のために他者に動作をさせる」（早津 2017:11）ことが読み取れるもの、すなわち、前後の文脈に、主語（＝使役者）の目的・意図を表す表現が現れるもの。
（早津例）彼女は伊勢海老の料理をつくるため息子のテアミに……えびをとりに行かせた。
（下線は本稿執筆者による）
- ii 「みちびき」の使役の場合、「動作主体にある状態をもたらそうとしてそのための動作を行わせる」ことが読み取れるもの、かつ「その動作をすることが動作主体にとってよいこと（恩恵を受けること）である」（早津 2017:11）もの、すなわち、使役表現中の動詞自体が、一般的にみて望ましい事態をもたらすと目される動作を表すもの、あるいは、前後の文脈に、動作者の願望や嗜好などを表す表現、動作者の喜び、感謝などが読み取れる表現が現れるもの。
（早津例）行友は……珍しいもの好きの道雅の喜ぶ洋食をわざわざ遠くからとって食べさせたりした。（下線は本稿執筆者による）

例を挙げる。(29)～(32)は「恩恵」の例、(33)～(36)は「非恩恵」の例である。

- (29)そして僕にウサギを抱かせてくれた²²⁾。【1511】
→①然后让我抱，
- (30)いつものちょっとした仕草が僕の心をなごませ、癒してくれた。【3293】
→②她这一如往日的平平常常的一言一行，使我顿感释然，心绪平和如初。
- (31)私のギターも聴かせてあげられるし。なかなか上手いのよ【1124】
→⑥我还可以弹吉他给你们听。我正经有两手哩！
- (32)正月のあいだ寮の食堂は閉まったので僕は彼女のアパートで食事をさせてもらった。【361】
→⑩新年的时候，宿舍食堂关了门，我便在直子公寓里搭伙。
- (33)お姉さんは何をやらせても一番になってしまうタイプだったのだ、【1658】
→①姐姐属于无论让（ママ）²³⁾干什么都拿第一那种类型。
- (34)雨の日曜日は僕を少し混乱させます。【2644】
→②下雨的星期天多少使我有些惶惶然。
- (35)彼女がきれいにセットした髪をくるりとうしろに回して金のイヤリングを光らせ、【2575】
→④她把梳理得恰到好处的秀发一转挽到脑后，光亮丽地闪出金耳环，
- (36)緑は顔を輝かせて指をばちんと鳴らした。【2720】
→⑩绿子满面生辉，打个指响问：

収集例について、まず、日本語原文における「つかいだて/みちびき」と「恩恵/非恩恵」の分布を表4に示す。

22) 恩恵の意味が読み取れる用例について、日本語原文では「サセル」にさらに「テヤル・テクレル・テモラウ」がつくものも多いが、もちろんすべてではない。

23) 正しくは“让”の後に“她”が入るべきものと思われる。

	恩恵 (Y → X)	恩恵 (X → Y)	Y の被害	どちらでもない	計
つかいだて	11		4	6	21
みちびき		32		23 ²⁴⁾	55
その他 ²⁵⁾	5	17	15	60	97
計	16	49	19	89	173

表4: 「つかいだて / みちびき」と「恩恵 / 非恩恵」の分布

「つかいだて」の使役は使役者(X)が動作者(Y)に動作を行わせることによってXがその結果を享受する事態を表現することから、XがYから「恩恵」を受けることを含みとして表しやすく、「みちびき」の使役は使役者(X)が動作者(Y)に動作を行わせることでY自身がその結果を享受するという事態を表現することから、Yが「恩恵」を受けることを含みとして表しやすい、とする早津の記述をそのまま示す結果である。

次に「恩恵 = (Y → X) + (X → Y)²⁶⁾」と「非恩恵 = 被害 + どちらでもない」の2つに分けて、中国語訳文の形式上の分類との関係を見たのが表5である。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦⑧⑨	⑩	計
恩恵	37	3	2	5		2	6	10	65
非恩恵	15	17	2	24	2	3	9	36	108
計	52	20	4	29	2	5	15	46	173

表5: 「恩恵 / 非恩恵」の中国語訳の形式上の分類

グラフ化すれば以下のようになる。

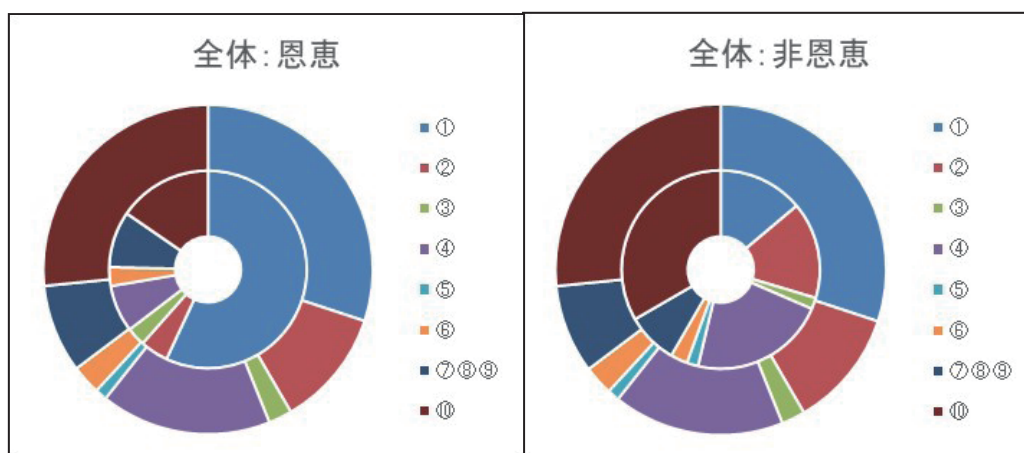


図2 「恩恵 / 非恩恵」の中国語訳の形式上の分類

- 24) みちびきの使役で動作者(Y)への恩恵を表さないものは、作業の手順を述べるような場面に見られた。
- 25) その他としては、使役者(X)と動作者(Y)のどちらかまたは両方が人以外のもの、動詞が無意志動詞のものが見られた。
- 26) 加藤 2019 では Y から X への恩恵 (Y → X) と X から Y への恩恵 (X → Y) とを分けているが、本稿での調査では、前者の数が少なかったことと、どちらも同じような傾向を示したことから、合わせて示した。

外側の円が、全考察対象 173 例の内訳、内側の円が、「恩恵」「非恩恵」それぞれのみの内訳である。一見して目立つのは、「恩恵」の意味を含むもののほうが、使役形に翻訳されることが多いという点である。これは意外な結果であり、今後更なる検討を加えていきたい。

おわりに

以上本稿では、日本語で書かれた小説『ノルウェイの森』に現れる使役形が、どのように中国語に翻訳されているかを見て、日本語の使役文に認められる「つかいだて」と「みちびき」の別が中国語の使役文でも表されるかどうかを考察した。結果をまとめると、中国語訳文の形式上の分類から見る限り、その別は訳文に反映されないようであるが、訳文中の動詞が、原文の逐語訳的な訳語でない場合に、「つかいだて」「みちびき」の意味が薄れたり失われたりすることが観察されたことから、このことを逆から見れば、動詞の違いに「つかいだて」「みちびき」の別が表される可能性がある。

今後はより広く用例を収集し、『ノルウェイの森』の特徴に起因する要素を特定、排除する必要がある。また、「つかいだて」「みちびき」との関係が強い、「恩恵」の意味の現れ方についても、今後さらに追究していきたい。

参考文献

- 加藤重広. (2006). 日本語文法 入門ハンドブック. 東京: 研究社.
- 加藤晴子. (2016). 日中対訳小説に見る受身形の使用状況と視点の関係. 東京外国語大学論集92号, 65-82.
- 加藤晴子. (2019). 日中対訳小説に見る使役形と恩恵の関係. 東京外国語大学論集99号, 55-72.
- 木村英樹. (2000). 中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化. 中国語学247号, 19-39.
- 木村英樹. (2003). 中国語のヴォイス. 言語Vol.32, No.3 [381], 64-80.
- 木村英樹. (2012). 第8章 ヴォイスの意味と構造. 中国語文法の意味とカタチ——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—— (ページ: 187-213). 東京: 白帝社.
- 杜暉. (2020). 使役標識“让”“叫”“使”“把”の意味的・機能的特徴—使役文の体系化に基づいて—. 日中言語対照研究論集22号, 102-116.
- 日本語教育学会編. (1982). 日本語教育事典. 東京: 大修館書店.
- 早津恵美子. (2016). 第3章 意志動作の引きおこしを表す使役文の文法的な意味 「つかいだて」と「みちびき」. 現代日本語の使役文 (ページ: 85-127). 東京: ひつじ書房.
- 早津恵美子. (2017). 使役文にみられる恩恵授受性. 表現研究106, 表現学会, 7-16.
- 早津恵美子. (2018). 第5章 使役表現. 北原保雄監修 尾上圭介編, 朝倉日本語講座6 (ページ: 128-150). 東京: 朝倉書店.
- 早津恵美子. (2019). 日本語の授受文の表す恩恵授受性—使役文の表しうる恩恵授受性との関係—. ユーラシア諸言語の動態Ⅲ—言語の多様性と類型と懇請言語—21, ユーラシア言語研究コンソーシアム, 1-9.
- 三宅登之. (2007). 使役動詞と伝達動詞の接点. 彭飛, 日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴— (ページ: 345-370). 大阪: 和泉書院.
- 三宅登之. (2013). 行為連鎖モデルから見た使役を表す兼語文のバリエーション. 東京外国語大学論集87号, 83-100.

- 楊凱榮. (2018). 10 日中ヴォイスの対照研究. 中国語学・日中対照論考 (ページ: 184-205). 東京: 白帝社.
- 楊麗榮. (2014). 中国語の結果構文が「使役」の意味を派生するメカニズムについて. 現代社会文化研究 第59号 (新潟大学大学院現代社会文化研究科), 37-49.
- 牛順心. (2008). 从类型学参项看普通话中分析型致使结构的句法类型及其语义表现. 语言研究 第28卷第1期, 60-68.
- 刘永耕. (2000). 使令度和使令类动词的再分类. 语文研究 第2期 (总第75期), 8-13.

用例出典

- 北京日本学研究中心. (2003) 中日対訳コーパス
- 村上春樹. (2004). ノルウェイの森(上)(下). 講談社文庫
- 村上春樹著・林少華译. (2007). 挪威的森林. 上海译文出版社

本稿は、2022.8.21第十三届汉日对比语言学研讨会（山东大学 [オンライン]）における発表に加筆修正したものであり、2022年度科学研究費基盤研究(A)（研究課題：CEFR-J 準拠多言語教育統合環境の構築と実践，課題番号：22H00076，研究代表者：投野由紀夫）による研究成果の一部である。